

JSOG Newsletter

# Reason for your choice

No.11  
October  
2012

わたしたちの医療は“新しい生命”を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

公益社団法人 日本産科婦人科学会  
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

シリーズ 産婦人科サブスペシャリティへの道

## 若手医師に聞く 02 周産期医学編

第一線でサブスペシャリティ取得を目指して邁進する若手医師を、各分野で特集します。第2回「周産期医学編」は、東京大学医学部附属病院の入山高行先生です。



東大医師会医学賞受賞

**私の毎日**  
私は、日々の入院症例の管理および分娩管理に加えて、超音波診断装置を用いて胎児診断を行う専門外来を担当しています。正確な胎児診断を行うのは勿論のこと、疾患の詳細のみならず心理的なケアも含めて時間をかけて患者様やご家族とお話することを心がけて診療を行っています。ま

**はじめに**  
私は現在、東京大学医学部附属病院の産科で勤務し、周産期医学、その中でも胎児診断・治療を専門とするべく精進中の日々を送っています。

だ担当して2年足らずで専門と胸をはって言えるレベルには程遠く、一人前になるべく勉強中の毎日です。

**周産期医学のサブスペシャリティの魅力**  
周産期医学、産科は、まずお母さんに関しては、妊娠中の全身状態の変化を考慮に入れて妊娠前からの管理を行い、安全な分娩および産褥期につなげるのが仕事です。胎児に関しては、主に超音波診断装置を用いて異常を診断し、必要に応じて子宮内での治療を行うのも我々の仕事です。胎児診断・治療の進歩により、従来では死産となっていた疾患や、出生後の治療だけでは良好な予後が期待できなかった疾患を持つ赤ちゃんも助けられるようになりました。分娩を無事に終えたお母さんの笑顔と赤

は学生時代より癌研究に興味があり専門とした旨を伝えましたが、周産期医学を専攻するように告げられ、ひどく動揺したことを鮮明に覚えています。しかし、今となつては周産期医学の奥深さにとりつかれ、臨床に、研究にと大きなやりがいを感じています。

実は、私は自らすすんで周産期を専門として志したわけではありません。我々の教室では、当時は入局して3年目、現在は2年目に、教授より将来の専門、研究テーマをいただきます。私は学生時代より癌研究に興味があり専門とした旨を伝えましたが、周産期医学を専攻するように告げられ、ひどく動揺したことを鮮明に覚えています。しかし、今となつては周産期医学の奥深さにとりつかれ、臨床に、研究にと大きなやりがいを感じています。

**周産期医学のサブスペシャリティを目指したきっかけ**  
若い先生方は、周産期管理も癌の治療も不妊治療も何でも一流にできるようになりたいという気概を持って研修されていると思います。私もそうでした。しかし近年、各分野の専門性は増すばかりで、オールマイティに最先端の知識および技量をもって診療にあたるのが困難になりつつあると実感しており、サブスペシャリティを持つて最善の医療を患者様に提供することが今後の我々に求められる責務であると思っております。周産期医療は昼夜を問わず緊急性が求められる身体的にも精神的にも負担は大きいものの、その分良い結果が得られた時には大きなやりがいを感じることもできる分野です。一人でも多くのやる気のある方が周産期医学を専門とし、日本の周産期医療の力となつていただければと僥倖ながら願っています。



**プロフィール**  
入山 高行  
東京大学医学部附属病院 女性診療科産科助教  
卒後11年目  
趣味・ゴルフ、映画鑑賞  
最近、第1子、娘を自分の手で取り上げました

**先生、研修医の先生方へのメッセージ**  
若い先生方は、周産期管理も癌の治療も不妊治療も何でも一流にできるようになりたいという気概を持って研修されていると思います。私もそうでした。しかし近年、各分野の専門性は増すばかりで、オールマイティに最先端の知識および技量をもって診療にあたるのが困難になりつつあると実感しており、サブスペシャリティを持つて最善の医療を患者様に提供することが今後の我々に求められる責務であると思っております。周産期医療は昼夜を問わず緊急性が求められる身体的にも精神的にも負担は大きいものの、その分良い結果が得られた時には大きなやりがいを感じることもできる分野です。一人でも多くのやる気のある方が周産期医学を専門とし、日本の周産期医療の力となつていただければと僥倖ながら願っています。

**将来のあるべき姿を見つけて出すために**  
医学士、初期研修医の皆さん。医師として自分の専攻を決定してから先のことを想像したことがありますか？目の前の国家試験、毎日の研修に全力投球中の皆さんには、遠い先のこのように思えるかもしれません。これから一生その領域で頑張っていくと、固い決心で進んだ道でも、いつか必ず「これで良かったんだらうか？」「これからどう進んでいったらいいんだらうか？」と悩む時期が来ます。このような世代の中堅産婦人科医師たちの横の連携を深め、将来のあるべき姿を見つけて出す機会を提供するために、スプリングフォーラムは開催されています。第2回となった今回も、京都平安ホテルに全国から61名の産婦人科医師の皆さんが集結し、3月3日から4日にかけて行われました。

**様々なアイデアが発表されるワークショップ**  
スプリングフォーラムの中核プログラムは、参加者がいくつかのグループに分かれ、二日間にわたって一つのテーマについてKJ法、二次元展開法によりアイデアを出したのち行われるワークショップです。討論される今回のテーマは、「産婦人科専門医取

### 第2回日本産科婦人科学会スプリングフォーラム 開催報告

得後10年をどう過ごす？ー目標と克服すべき課題ー」でした。各グループそれぞれが、自分達や我が国の産婦人科医療を取り巻く問題や課題を抽出し、その改善へむけての方策について様々なアイデアが発表され、熱いワークショップとなりました。

臨床から基礎研究まで、幅広い講演内容

一日目プログラムのもう一つの柱は、先輩医師達によるシンポジウム講演でした。「産人に学ぶー産婦人科専門領域の魅力ー」と題し、婦人科ロボット手術、胎児超音波画像診断、骨盤臓器脱に対するTMS手術、其々の産婦人科医師から非常に魅力あるお話をうかがうことができました。さらに、今回は斎藤通紀教授（京都大学大学院医学研究科生体構造医学講座機能微細形態学）をお招きし、まさに第一線研究であるES細胞の生殖医療への応用研究について、「生殖細胞の発生機構とその試験管内再構成」と題して講演いただきました。臨床から基礎研究まで、興味深い内容の講演をいっぺんに、しかもかぶりつきで聴ける機会はずいぶんありません。その晩は、グループディスカッション、シンポジウムの興奮冷めやらぬまま懇親会が行われました。ちよっぴりお酒も入りつつ、楽しく「熱い」番外編プログラムがこどもも繰り広げられました。

二日目には「産婦人科医療改革の道」と題して、日本産科婦人科学会が果たしてきた役割についての講演があり、全国レベルでみた産婦人科医療の状況に関する知識を新たにすることができたことと思います。さらにランチョンセミナー「産婦人科研究・supercityへの展望ー先輩医師から学ぶー」として、生殖医療の臨床・研究に情熱を捧げ続ける先輩医師からの「産婦人科医師が基礎研究に携わる意義は何か？」と題した参加者への檄ともいえる講演で幕を閉じました。

今回のスプリングフォーラムも第一回同様に熱気ある会となりました。いつの日か、みなさんもこの輪の中に入って下さることを期待しています。



# 第64回日本産科婦人科学会学術講演会 開催報告



## 過去最高の参加者数

平成24年4月13日(金)〜15日(日)の3日間、桜満開、春爛漫の神戸ポートピアホテルおよび神戸国際展示場にて、若手の育成に力を注いできた平松祐司会長の熱い気持ちが込められた「夢いだき集え若人」をスローガンに第64回日本産科婦人科学会学術講演会を開催させて頂きました。一般演題は約1500題、国内外からInternational sessionへも1000題の応募がありました。参加者は6300名を越え、過去最高となりましたが、特筆すべきは、161名の医学生、177名の初期研修医が参加してくれたことです。産婦



日本産科婦人科学会サウンドチームによる演奏

人科の魅力を少しでも感じて興味を持つきっかけとなればと思います。

## 演題検索システムを導入

今回、新しい試みとして演題名、演者名での検索や抄録のダウンロード、マイスケジュールやオリジナル抄録集作成機能などを備えた演題検索システムを導入致しました。会期中はスマートフォンサイトでも、PCサイトと同じくタイムテーブルや、演題検索、スケジュールの管理などが行えるようにしましたが、会場でタブレット端末を見ながら講演を聴いている姿は新しい光景でした。また13日の夜開かれた情報交換会では、日本産科婦人科学会員を中心に結成されたNSI(日本産科婦人科学会サウンドチーム)管弦楽団による演奏が花を添えました。

周産期、腫瘍、生殖、女性のヘルスケアの各分野における専門家による教育講演を始め、生涯研修プログラムでは日常の産婦人科臨床床における様々な問題点について、ワークショップ、クリニカルレビュー、クニカルレクチャーを通して、熱い発表、討論が繰り広げられました。また会長特別企画として「東日本大震災から一年：現状と提言」と題して、震災後一年が経過している現状と今後には生かす提言をワークショップ形式で討論しました。



アンサーパッドを用いたQ&A

## アンサーパッドを用いたわかりやすい解説

今回から始まった専攻医教育プログラムでは専門医試験にむけて重要54項目から18項目を選定しその道のエキスパートがアンサーパッドを用いたQ&Aも交えてわかりやすい解説で連日満員、大盛況でした。また若手医師向けにモーニングセミナーとして朝7時半から「よくわかる」シリーズと題して明日からの日常診療に役立つ内容の講演を用意致しましたが、朝早くにもかかわらずたくさんの方が参加していました。

## 国際支援をテーマにしたワークショップ

特別企画として、国際産科婦人科連合(HGO)のPresidentをはじめ4名の役員が来日しHGO forumを開催しました。更に国際支援をテーマにワークショップをHGOやJICAに加え



International seminar for junior fellows



平松祐司教授率いる教室員の集合写真

## 第64回日本産科婦人科学会学術講演会 Pre Congress

# International Seminar for Junior Fellows



## 若手産婦人科医師と海外の産婦人科医による英語のディスカッション

第64回日本産科婦人科学会学術講演会のPre Congress企画として、International Seminar for Junior Fellows (ISJF)が開催されました。2005年から開催されている本企画は今回で7回目の開催となりました。この企画は若手産婦人科医師(卒後5年から10年程度と、海外の産婦人科



## 日本文化を紹介しながら、楽しい夕食会

会終了後は神戸三宮の居酒屋で懇親会を行い、日本文化を海外の先生方に紹介しながら、グループごとに楽しい夕食会となりました。

## 事前に電子メールでテーマを話し合う

参加者は8つのグループに分かれてテーマを決め、会当日に向けて事前に電子メール等を介して話し合っていました。

## 議論が進むにつれ打ち解けた雰囲気

メンバー同士の顔合わせは会当日が初めてとなり、最初は英語での会話に戸惑いもあり、お互いに緊張していました。議論が進むにつれ、打ち解けた雰囲気になり、積極的に討論ができました。最後には仲良くなりメール交換などをしていました。また全体発表では海外から派遣された先生や、見

## 夢いだき若手医師に新たな出会いと交流を

今回の学術集会のキャッチフレーズは「夢いだき集え若人」でしたが、ISJFを通じて多くの夢いだき集まった若手医師が、新たな出会い、交流をすることができました。参加者それぞれが産科婦人科医としてのキャリアをこれから築いていくための、また未来の指導者やリーダーとなるための刺激をたくさん受けたのではないかと思います。

